

「神が準備してくださる“道”」

2021年2月

中学宗教主事 川俣 茂

主はこう言われる。

「さまざまな道に立って、眺めよ。昔からの道に問いかけてみよ
どれが、幸いに至る道か、と。その道を歩み、魂に安らぎを得よ。」

(エレミヤ書6章16節)

私たち一人ひとり、それぞれに「道」があります。すぐくまっすぐな、それこそ一直線の道の人もいれば、道がありそうで実はなかなか道が見えない人もいるかもしれません。私自身、ふり返って考えてみても、それまで歩いてきた「道」は、時には細くなったり、時にはすごい回り道をしたり、あるいは道なき道だったりといろいろな状態でしたが、よく見てみると、一本の道となっていました。

不思議なことに、みな、それぞれの「道」を歩いてきています。自分が道を作っていたわけでもないし、道があると思って歩いていったわけでもない。ただ、毎日なんとなく過ごしていたらこういうことになっていた。一本の道になっていたのです。さらに不思議なことに、その道ではなかったら、その道を歩いていなかったら(実際にそういうことはありえないでしょうが)、私たちの人生はどうなっていたのでしょうか。今の「私」はなかったといえるでしょう。

これまでは何かとあわただしい日々を送ってきたこともあり、「そんなことを考えたこともなかった」かもしれません。でも、どうして私たちは今ここにいるのでしょうか。そしてこれから先は…?

昨日も今日も明日も、毎日毎日過ごしていくことで、道ができていく。「自分が道を作るわけではなく、何かが道を作っているのでは？」という疑問が出てくるのは、もっともだと思います。ただ、その「何か」がわからないまま、過ごしてきたからなのかもしれません。

私たちの歩みの中では、時には「どの道を歩んだらよいのか」、悩んだり、迷ってしまったりすることもあります。また「こう歩みなさい」と言われても、ついつい反発してしまうこともあります。しかし聖書は「さまざまな道に立って、眺めよ。昔からの道に問いかけてみよ／どれが、幸いに至る道か、と。その道を歩み、魂に安らぎを得よ。」と語ります。

まずは焦ることなく、「さまざまな道に立って眺めてみなさい」、その次に「昔からの道に〈どれが幸いに至る道なのか〉と問いかけてみなさい」、そしてその結果、示された「道を歩みなさい」と。そうすると、「魂に安らぎを得る」と語っています。

ただ、一つ忘れてはいけないのは、「さまざまな道に」という部分、つまり「私たちの前にはさまざまな道が備えられている」ということです。その道は誰が備えているのでしょうか。答えは神です。神が私たち一人ひとりに道を準備してくださっています。その道を信頼して歩むこと、それこそが「魂に安らぎを得る」ことになるのではないのでしょうか。

これからも「さまざまな道に立つ」、つまり道の分かれ目、岐路に立つことが多々あることと思います。時には「人生の分かれ道」、「人生の岐路」に立つこともあるでしょう。そのような時にも神が私たち一人ひとりに道を準備してくださっています。私たちの背後にあって常に守り、支えてくださる神。そのような神によって建てられたのがこの清教学園なのです。

みなさんにも神の御守りがあるように祈ります。